

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

鳥取県智頭町

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

鳥取県智頭町 SDGs 未来都市計画

－ 中山間地域における住民主体のSDGsまちづくり事業－

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

鳥取県智頭町 SDGs 未来都市計画－中山間地域における住民主体のSDGs まちづくり事業－

(2) 2030年のあるべき姿

今ある文化・伝統・風習を守り、一人ひとりに寄り添い、想いがカタチになる可能性がたくさんある場所のあるべき姿とする。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 	 	  

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度 （%）
1	自伐林業家及び自伐型林業家（経営体）【8.3,9.2】	2019年 15 経営体	2020年 11 経営体	2030年 20 経営体			-80%
2	コミュニティビジネスの種類【8.3,9.2】	2019年 4 種類	2020年 5 種類	2030年 6 種類			50%
3	行政へ参加する人数（地区1/0）【11.3, 11.7】	2019年 5 地区	2020年 5 地区	2030年 6 地区			0%
3	行政へ参加する人数（百人委員会委員）【11.3, 11.7】	2019年 96 人	2020年 90 人	2030年 180 人			-7%
4	行政へ参加するアクターの種類（女性団体）【16.7】	2019年 3 団体	2020年 4 団体	2030年 5 団体			50%
4	行政へ参加するアクターの種類（町長・町議会選挙投票率）【16.7】	2019年 80 %	2020年 74.54 %	2030年 90 %			-55%
5	森林資源を活用した新規事業の数【4.2, 11.4, 15.4】	2019年 3 事業	2020年 4 事業	2030年 6 事業			33%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

本町が将来像として掲げる「一人ひとりの人生に寄り添えるまち」を実現するため、最も重要視している事業は「1/0村おこし運動」や「百人委員会」など、住民自治力向上や行政への参画意識を向上させる取り組みである。多くの住民や組織、団体がまちづくりを自分ごととして捉えた結果、コミュニティビジネス数の増や森林資源を活用した新規事業数の増から、町内の様々な資源を活用したビジネスの可能性が発現していることがわかる。

課題としては、活動する個人、組織に固定化が見られ、より多種多様な人格や世代、チームのチャレンジを後押しきれていないことが顕在化している。百人委員会の委員数や行政参加のアクター数が伸び悩んでいることから、そのことがうかがえる。中高生をはじめとした町民に対し、百人委員会への参加が魅力的な活動として認知される取組を推進し、行政への参加を促していく必要がある。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	森林関連事業（森のようちえんと森林セラピー）の拡大	森のようちえん入園数	2019年 30人		2019年 30人	2020年 28人	2021年 30人	-7%
2	森林関連事業（森のようちえんと森林セラピー）の拡大	森林セラピー参加者	2019年 500人		2019年 500人	2020年 410人	2021年 1,000人	-18%
3	自伐林家及び自伐型林家の育成等による林業再生	自伐林家、自伐型林業家	2019年 15人		2019年 15人	2020年 16人	2021年 17人	50%
4	セラピーロードの整備	整備されたセラピーロード数	2019年 3箇所		2019年 3箇所	2020年 4箇所	2021年 4箇所	100%
5	食育と健康体操の普及促進	介護保険認定率	2019年 17.2%		2019年 17.2%	2020年 17.5%	2021年 17.2%	-1%
6	高齢者や一人暮らし家庭などの見守り事業	見守り安心ネット（お元気ですかメール）の利用者	2019年 87人		2019年 87人	2020年 82人	2021年 100人	-38%
7	ちづNEXTと百人委員会学生版によるふるさと意識の醸成	愛着・関心度の育みアンケート	2019年 -		2019年 -	2020年 -	2021年 愛着・関心度の向上	-
8	起業支援	起業数	2019年 9社		2019年 9社	2020年 12社	2021年 11社	150%
9	育みの郷	豊かな自然環境で出産の喜びや子育ての感動（出生者数）	2019年 37人		2019年 37人	2020年 30人	2021年 45人	-88%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「森のようちえん」は、本町での取り組みを契機として県内での活動が広まり、平成27年度から鳥取県による「とっとり森・里山等自然保育認証制度」が開始された。町内におけるフィールドは9箇所あり、集落や事業者が管理している土地や建物を活用するなど、地域に根ざした活動が展開されている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

新しい公共ガバナンスのあり方として、役場内に若手職員で組織される「SDGs推進チーム」を形成し、今後行われる町民ワークショップなどへのファシリティ研修を実施する。また、有識者や地元銀行、商工関係者からなる「SDGsアドバイザーボード」を設置して、未来都市計画の進捗管理やまちの取組への助言を行う体制を整えている。

一方、稼ぐ力を発揮する取組として、地区振興協議会主導での空き校舎活用検討を進め、企業誘致や収益事業を行う組織の立ち上げも実現している。那岐地区では2021年度の新小学校大規模改修が予定されている。

育みのための仕組みづくりでは、2020年度に新図書館及び助産院のいのちねがオープンし、森のようちえんや地元地区活動との連携により、育みの地域内循環が形成されつつある。

支え合う仕組みづくりでは、「まちのコイン」を2020年度に実証導入し、2021年度に本格導入を予定しており、地域内で人とモノが循環し、SDGsと紐付けられることにより、取組の成果の見える化を図ることで、支え合う取組を自分ゴトとして捉えられる環境づくりを行っている。

ちづNEXTと百人委員会学生版によるふるさと意識の醸成の指標、「愛着・関心度の育みアンケート」については、2021年度にSDGsをテーマとした取組を行っており、年度内に中学生を対象とした意識調査を実施する予定である。ちづNEXT授業の延長上に百人委員会の中学生提案を想定しており、翌年度予算折衝を行うため、2021年12月頃をめどに実施予定である。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・小規模な自治体ながら、自立型を目指し、様々な工夫をこらしながら地道な努力を進めている点を評価する。今後も隣接自治体をはじめとして、同様の課題を抱えている自治体との連携などについても検討されることが望まれる。

・町の予算を使って地域のビジネスにつなげているため、経済面の取組がしっかりしている。社会面については百人委員会などのコミュニティが形成され、環境面についても森林を中心とした自然の運用ができていて、経済・社会・環境が好循環している点が評価できる。自治体の予算以外に自立型の経済を確立するために、森林経済を組織化・法人化することを検討されることが望まれる。

・セラピーロードは、外部からの森林セラピーの利用者を恒久的に増加させるとともに、住民自身の健康増進にもつながる取り組みと捉えられるが、具体的な利用促進を図る仕組みは、森林セラピーとは別に何か取り組まれているのか。外部からの来訪者を増やし、町の経済活性化につながる取り組みを進められていると思われるので、引き続き取組を進められることを期待する。

・外部の人を呼び込めるということは、経済の発展にもつながられるため、成果が見える形で進捗評価シートに記載することが望ましい。取組自体の結果を示すKPIではなく、その取組をどのように発展につなげていくかを共有することを期待する。

・森のようちえん、森林関連事業とまちづくり、観光産業等との連携について具体的な取組を期待する。

・地域通貨の具体的な利用例、観光客数、交流人口、居住人口の変化とSDGsの取り組みの関連についての説明を期待する。

・取組が進捗評価シートに表れていないのが残念である。今年度SDGs未来都市に採択された鳥取市や、西粟倉村と連携した取組も検討されることが望まれる。